

令和7年度第2回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議の概要について

令和7年10月24日 社会教育課

1 日 時 令和7年9月19日（金）午後1時30分から午後4時30分まで

2 場 所 県立倉吉体育文化会館 小研修室2

3 出 席 者 別添のとおり

4 会議概要

（1）研修

「学びと地域づくりの好循環を創る 広島版『学びから始まる地域づくりプロジェクト』を取りあげて」

（講師：広島修道大学 人文学部 教授 山川 肖美 氏）

広島県立生涯学習センターの生涯学習推進マネージャーでもある山川教授から、広島県で実施している「学びから始まる地域づくりプロジェクト」を参考に、生涯学習と持続可能な地域づくりの好循環を作るプロセス等について学んだ。

（2）意見交換

ア 持続可能な地域コミュニティを創造するための方策について

「今後の生涯学習のあり方」答申の作成にあたり、「検討の視点2 持続可能な地域コミュニティを創造するための方策」を検討するため、ふるさとキャリア教育への関わりを通して積極的に学びに参加する仕組みづくりや、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のさらなる充実に向けた方策等を議論した。

＜委員の主な意見＞

（生涯学習講座について）

- ・山川教授の研修を受講し、学びとまちづくりの好循環の仕組みを長いスパンで考えたり、アウトプットやアウトカムを視覚的に示したりしたうえで、生涯学習センターの各種講座を行うとよいのではないかと感じた。

（ふるさとキャリア教育について）

- ・担い手不足によって、地域の文化が廃れていっているように感じる。小学校で地域の歴史や文化を学んでいない場合もあると思うので、それらを教えてもらえるようなシステムが必要だと思う。
- ・まちづくりや福祉、観光等についてグループで研究している中学校がある。こういう活動を中学校が行えば、地域に対する思いが増すのではないか。
- ・高校の成績評価に地域貢献度をもう少し加味されれば、地域貢献に積極的になるのではないか。
- ・子どもたちに対して、地域でのボランティア等の機会をたくさん作ることが大事ではないか。学校を卒業してからも継続してふるさとを愛する気持ちを持つには、小さい頃の経験や体験の影響が非常に大きい。地域の大人が子どもたちを地域に引っ張り出すこと、学校の先生方も子どもたちにどんどん地域の活動に参加させることで、ふるさとキャリア教育が推進されるのではないか。

（社会教育施設について）

- ・県立青少年社会教育施設の見直しはどのように行われるのか。ふるさとキャリア教育を進めるために、大山青年の家や船上山少年自然の家の機能は必要なのか、そうではないのか。どういう機能がふるさとキャリア教育に役立つか。そのあたりは答申の中ではどのように触れるのか。
→（事務局）子どもたちにとって青少年社会教育施設は必要不可欠だと思う。今回の答申は良いきっかけであるので、そのような観点からもご提案いただきたい。
- ・山川教授の研修で、プログラムとプロジェクトは違うという話があった。青少年社会教育施設でプロジェクトができたらよいと思う。施設での体験を通して友情を築いたり、チャレンジ精神を養ったりすることも大事だが、大山の自然の魅力を実感するなど、子どもたちがふるさとに対する愛着も養えるようなプロジェクトの検討も必要だと思う。
- ・事務局から施設が老朽化しているという話があったが、子どもたちが体験活動をするときに、何をするか、どんな場所ですかよりも、誰とやるのかということが重要だと思う。遊び場が少ない地域では、公園や森を開放し、そこにプレイリーダーというボランティアの人がいる。プレイリーダーの養成講座を生涯学習センターで実施し、青少年社会教育施設で活躍することができればよいと思う。若者が鳥取県での体験活動にプレイリーダーとして関わることを通して、鳥取県の大学に入学しり、定住したりすることも期待できる。

- ・智頭町立図書館は、地域のことを知つてもらうような図書館づくりをされており素晴らしい。子どもや若者が居心地がよい図書館で資料に手に伸ばしたり、充実したイベントも実施していたりする。図書館は地域を盛り上げる拠点としてとても有効ではないかと感じた。

(コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について)

- ・例えば学校遠足のコースを地域の名所等に立ち寄るコースにし、学校運営協議会の委員を通じて地域の方にその名所の話をしていただくようにするなど、学校行事の中でうまく地域と結びつきが持てるような関係性ができればよいと思う。
- ・保護者は学校運営協議会の委員の方等をあまり認識していない。授業のお手伝いをしてくださっている地域の方と子どもたちは顔見知りだが、保護者は授業を見ていないので、お世話になっている地域の方を保護者が知らない。本来であれば感謝すべきであるのにできていないということを、保護者はどのように認識していくべきか。
- ・ボランティアの高齢化についての指摘があるが、やはり現役世代や子育て世代が、なかなか学校に入っていない。仕事の方が優先になっており、参観日にも行けない家庭が多い中ではあるが、保護者ができる活動はたくさんある。以前は学校が保護者にボランティアをお願いしていたが、今は学校運営協議会の委員等にお願いができるようになって、保護者に声がかからっていないケースがあるかもしれない。保護者が学校に入りにくくなってしまうほしくないので、コミュニティ・スクールに頼りすぎるのはなく、コミュニティ・スクールと保護者の関わりのバランスを考える必要があるのではないか。
- ・学校便りは読んでいるが、学校のことがよくわからない。学校のことが知られていない、知る術もないというのも課題ではないか。
- ・以前、当分科会で県内のコミュニティ・スクールの視察をし、教員から話を聞いたことがあった。教員が社会教育委員に対してアウトプットするようなことをすれば教員の理解も深まるのではないか。社会教育委員が関わることでコミュニティ・スクールが促進されるとよいと思う。
- ・コミュニティ・スクールと地域学校協働活動は、学校と地域と一緒に活動をすることであるのに、地域の方にお手伝いをしてもらうことだと誤認している教員もいるので、コミュニティ・スクール等についての理解を深めてもらいたい。

(答申について)

- ・県の役割は、民間や市町村の取組をコーディネートすること。県でなければできないことをするのだと強いリーダーシップを答申で示したい。

イ 生涯学習推進施策等に関する調査の結果について

市町村教育委員会を対象に実施した「生涯学習推進施策等に関する調査」の結果について議論した。

<委員の主な意見>

- ・全体の集計結果だけでなく市町村ごとの回答も示すことができれば、各市町村が抱えている課題等が分かり刺激になってよいのではないか。
- ・市町村にとっては、今回の調査を通じて改めて成果や課題を考えるきっかけとなった。県は各市町村の課題を確認し、必要なアプローチをしていただきたい。

(3) 事務局報告

第49回（令和9年度）中国・四国地区社会教育研究大会について

令和9年度に県内での開催が予定されている「第49回中国・四国地区社会教育研究大会」について事務局から説明した。

(事務局の報告概要)

- ・前回は平成29年に米子市で開催した。中国・四国地区の社会教育関係者600名程度の参加が見込まれる。
- ・県内の社会教育委員で構成する実行委員会を立ち上げるとともに、当日は運営の支援をお願いしたいので御協力いただきたい。

令和7年度第2回鳥取県教育審議会生涯学習分科会兼鳥取県社会教育委員会議名簿

| 氏名 | 所属・職名等 | 備考 |
|-------|---------------------------|-----|
| 赤嶋美和子 | 倉吉市立関金小学校長 | 欠席 |
| 池田 緑 | 鳥取県子ども読書アドバイザー | |
| 植田 紀子 | 株式会社新日本海新聞社編集制作局報道部長 | |
| 大堀 貴士 | 認定特定非営利活動法人ハーモニカレッジ理事長 | |
| 川口有美子 | 公立鳥取環境大学環境学部准教授 | 会長 |
| 木村 佳奈 | 南部町地域おこし協力隊 | 欠席 |
| 小林まゆみ | 鳥取県連合婦人会 | |
| 清水 秀満 | 鳥取市美保南地区公民館長 | 副会長 |
| 清水まさ志 | 鳥取大学地域価値創造研究教育機構准教授 | |
| 谷口 千春 | 鳥取大学附属幼稚園副園長 | |
| 津島 望 | 鳥取県P T A協議会副会長 | |
| 中田 寛 | 倉吉市教育委員会教育長 | 欠席 |
| 福田 範子 | 日南町教育委員会事務局教育課総括室長兼生涯学習室長 | |
| 森脇 昇 | 日本ボイスカウト鳥取連盟東部地区協議会長 | |